

平成25年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	バスケットボールにおける攻撃戦術指導の実践知に関する質的研究		
プロジェクト期間			
申請代表者 (所属講座等)	鈴木 淳 (保健体育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>本プロジェクトの目的は、バスケットボール競技において、プレー状況の変化に応じて即興的にプレー経過を創出するタイプの攻撃戦術（以下、フリーランス・オフENSE）を中心に採用し、国際的及び日本国内において高い競技成績を残しているトッププレイヤー及びトップコーチを対象として、攻撃戦術の指導に関する実践知を知識化すること、及びジュニア期における効果的な戦術指導に役立つ知見を実践現場に提供することである。</p> <p>プロジェクト期間内において、トッププレイヤー及びトップコーチに対するインタビュー調査を終え、トッププレイヤーについてはテキストの作成やテキストの分析が終了し、フリーランス・オフENSEを遂行する際の実践知としてまとめることができた。</p> <p>トップコーチについては、現在テキストの作成及びテキストの分析を行っている。また、収集することができた膨大な映像資料についても現在分析を行っており、映像資料を用いたインタビュー調査を再度行った上で、フリーランス・オフENSE指導の実践知として結果を公表する予定である。</p>		
研究成果の概要	<p>トッププレイヤーの攻撃戦術指導の実践知について以下のような成果が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 180cm 台のオールラウンダーが即興性の高いフリーランスで戦う方法は、体格に劣る日本女子バスケットボールチームが国際大会において高い競技成績を収めるために現時点でも一定の効果がある。 2. バスケットボールにおけるフリーランスには、個々のプレイヤーの動きにルールを設定することで個人戦術を効果的に連続させるタイプと、チームを2対2や3対3の部分集団に分けて階層的に認識し個々のプレイヤーの個性を生かすグループ戦術を素材にプレー展開の予測を共有するタイプがあることが示唆された。また、後者のタイプのフリーランスを効果的にプレーできるようになるためには、プレイヤー間でプレーの意図や優先順位に関するコミュニケーションを相当量とることが重要になることが示唆された。 3. 速攻場面とセット場面とに分けて攻撃開始局面の拘束条件を生み出すルールを設定してすること、攻撃の開始方法はポイントガードのプレーに他のプレイヤーが連動する方法と、ポイントガード以外のプレイヤーがグループ戦術を先に仕掛けてシュートチャンスを創り出す方法の2種類があったこと、また、攻撃継続中においてもグループ戦術が瞬時に拘束条件に設定されるケースがあったこと、困った時には指定したプレイヤーの個人戦術を起点にするかパターン・オフENSEを用いることによって局面を打開していたことが示唆された。 <p>今回得られた知見は、国際的に高い競技実績を持つ1名のプレイヤーの語りから得られたものである。今後、コーチの視点を加え、フリーランスの設計法、養成法に関する実践知を帰納的に集積していく必要があると考えられる。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [<input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法 (予定)	<input type="checkbox"/> 学会 (国内・国外) : <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input type="checkbox"/> その他 :